



株式会社
ダイニチ

Environmental Report



環境報告書
2016

目次

ごあいさつ P.2

会社概要 P.3

環境基本方針 P.4

2015年度活動状況 P.5~P.7

環境負荷低減対策 P.8~P.11

地球温暖化・省エネルギー対策

省資源・廃棄物の削減

- 水資源の有効活用
- 廃棄物の削減

化学物質排出削減

環境関連商品 P.12

ごあいさつ

ダイニックは、製品の開発から廃棄まで 常に環境保全を考えた企業活動を推進しています。

暮らしを「豊かに」そして「快適に」彩ることがダイニックのテーマです。

ダイニックの全従業員は、住みよい地球に向かうための環境基本方針を常に心掛け、技術と環境との調和を踏まえた、環境にやさしい企業活動に日々努めております。

私たちダイニックでは、ヒートポンプや排熱回収装置、高効率型変圧器、LED照明などの導入や環境負荷低減商品の拡充など、省エネルギー化・省資源化を推進しています。また、里山の保全活動へのボランティア参加など、社会貢献活動を通じ自然環境保全にも積極的に取り組んでおります。

今後も信頼される企業であり続けるために、次世代に向けて、全従業員が一丸となって環境対策への取り組みを強化し、地球環境保全の実現に貢献する企業活動を推進してまいります。

環境保全に対応した企業として、より一層成長するためにも、皆様からの忌憚のないご意見、ご指導をいただければ幸いに存じます。



平成 28 年 8 月

ダイニック株式会社
代表取締役社長

大石 義夫

会社概要

商号	ダイニック株式会社 DYNIC CORPORATION
創立	1919年8月18日
資本金	57億9,565万円
株式	東京証券取引所一部上場
売上高	278億円(グループ含み410億円) (2016年3月31日現在)
従業員	599名(グループ含み1,402名) (2016年3月31日現在)
本社	京都本社:〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26番地 電話 075-313-2111(代) FAX 075-313-2116
	東京本社:〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル 電話 03-5402-1811(代) FAX 03-5402-3146
営業所	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、香港、シンガポール、米国、タイ、英国、中国(グループ含む)
工場	滋賀、埼玉、王子、富士、真岡、シンガポール、米国、タイ、英国、中国(グループ含む)
関連会社	国内6社、海外9社
事業内容	書籍装幀用クロス、印刷・ビジネス用各種クロス、パッケージ用化粧クロス、銀行通帳用クロス、フィルムコーティング製品、表示ラベル用素材、複合フィルム、プリンターリボン、名刺プリンタ、文具紙工品、磁気関連製品、有機EL用水分除去シート、カーペット、壁装材、天井材、ブラインド、自動車内装用不織布・カーペット、フィルター、産業用ターポリン、テント地、雨衣、産業用不織布、容器密封用アルミ箔・蓋材、各種紙管紙器、パップ剤用フィルム加工、食品鮮度保持剤、接着芯地、ファンシー商品、商品等運送・保管他(グループ含む)



環境基本方針

【ダイニックの環境基本方針】

ダイニック株式会社は、環境保全への取り組みを重要な経営課題と認識し、国内外の環境関連法規制を遵守するとともに、環境負荷のより小さい製品を市場に提供していくことが製造メーカーとしての責任と考えている。その考えを具体的に実行するため、開発、資材調達、製造、販売、流通、及び廃棄のそれぞれの段階で、以下の項目を徹底推進する。

- (1) 製品のライフサイクルを通じ、事業活動のすべての段階で環境負荷を低減する。
- (2) 省エネ、廃棄物の減少に積極的に取り組み、環境汚染の防止に努める。
- (3) 有害な化学物質による環境を損なうリスクを予防する。
- (4) 環境に関する事業活動についての情報を開示し、地域社会と協調しながら、環境保全活動を積極的に推進する。
- (5) 環境保全に対する教育を徹底し、環境への意識向上を図る。

ダイニック株式会社

代表取締役社長 大石 義夫

■環境負荷低減の取り組み

製品の設計段階から、環境負荷の少ない素材、再利用しやすい素材を考慮することはもちろん、エネルギー負荷の少ない製造方法や、省資源、長寿命化を考慮した製品設計を行なっています。製造段階では、日々の製造現場において、省エネルギー、廃棄物削減に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。販売段階では、当社製品をご利用いただくことで、お客様の環境負荷が低減できる環境対応製品を提案し、地球環境保全に貢献する取り組みを行なっています。

■地球温暖化対策・生物多様性保全の取り組み

ダイニック全体で省エネルギー活動に取り組み、二酸化炭素の排出を削減することにより、地球温暖化対策を推進しています。また、生物多様性保全についても、地球温暖化対策等のリスクへの対応により、地球環境との共生を目指して取り組んでいます。



2015 年度活動状況

●ASSET 補助金制度

滋賀工場では、平成27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金（ASSET 補助金制度）を活用し、省エネ設備を導入いたしました。この制度は、先進的で高効率な低炭素機器等の導入を支援する事業であり、費用対効果の大きい案件が採択されます。この制度による省エネ設備の導入により、CO2 排出量を421t/年削減できる見込みです。

●ヒートポンプ

乾燥工程での省エネを目的に、熱風発生ヒートポンプを設置しました。乾燥工程での蒸気ヒーターの蒸気使用量削減と同時に、冷凍設備の水から熱を有効利用する仕組みにより、冷凍設備の電力消費も大幅に削減しました。



●排熱回収装置

滋賀工場では、これまで熱媒ボイラから大気へ排気していた熱を循環し、燃焼用空気の加熱に利用できるよう、新たに空気予熱器を設置しました。これにより、ボイラ燃料の大幅削減を実現しました。



2015 年度活動状況

●高効率型変圧器

埼玉工場の750KVA変圧器を高効率型に更新いたしました。変圧器の高効率型化により電力損失、CO2排出量を大幅に削減し、運転騒音も低くなっています。



●LED照明

真岡工場ラミ棟の天井照明を水銀灯からLED照明に更新しました。水銀灯に比べ消費電力を80%削減できています。LED照明は瞬時に点灯する事から作業効率上がり、また、防虫効果も高い為、品質向上にも貢献しています。



2015 年度活動状況

●地域貢献

滋賀工場内にある天文台「ダイニックアストロパーク天究館」では、天体望遠鏡を使用し、市民の皆さんに親しんでいただくことを目的として、天究館での観望会や各地へ出張しての移動観望会などを行っています。多賀町との共催で、「環境のための星空観察会」を開催しており、多くの来場者の方でにぎわいました。



●里山活動

早稲田大学本庄キャンパス・大久保山にて（公財）本庄早稲田国際リサーチパーク主催の落ち葉掃きに参加しました。定期的な落ち葉掃きにより、絶滅危惧種に指定されている植物が再生するなど里山の効果を改めて実感した一日でした。



撮影 (公財)本庄早稲田国際リサーチパーク



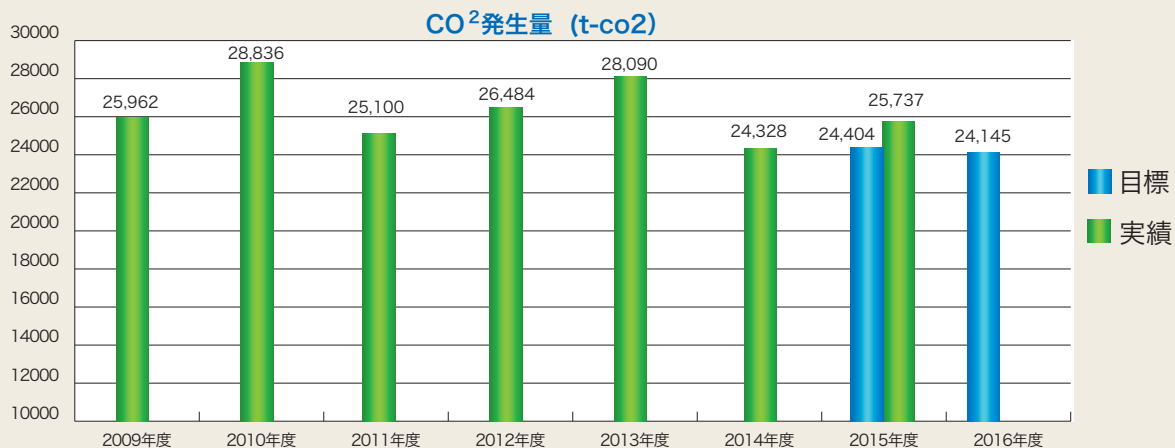
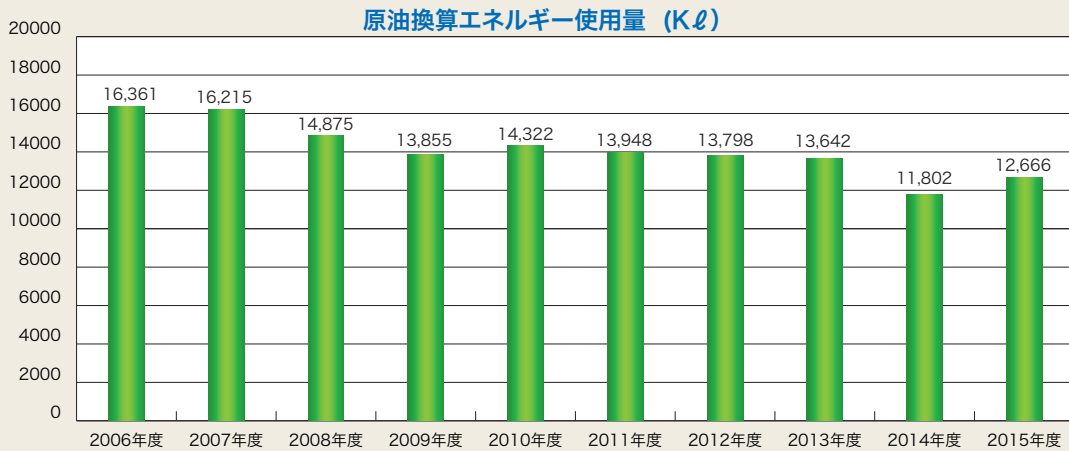
● 2015年度 環境負荷低減対策 ●



地球温暖化・省エネルギー対策

生産活動ではエネルギーを消費し、製品を造りだしています。これに伴い、地球温暖化ガスであるCO₂を排出します。CO₂の削減を目的に、生産工程でのエネルギー使用量の削減に取り組み、2009年度比で毎年1%削減を目標に掲げ、活動を展開しています。各種省エネ設備の投資として、工場天井照明（水銀灯）のLED化、変圧器の高効率型への変更、空調機の高効率型への変更、コンプレッサーを集中型への変更、事務所照明をLEDに変更等を実施してきました。

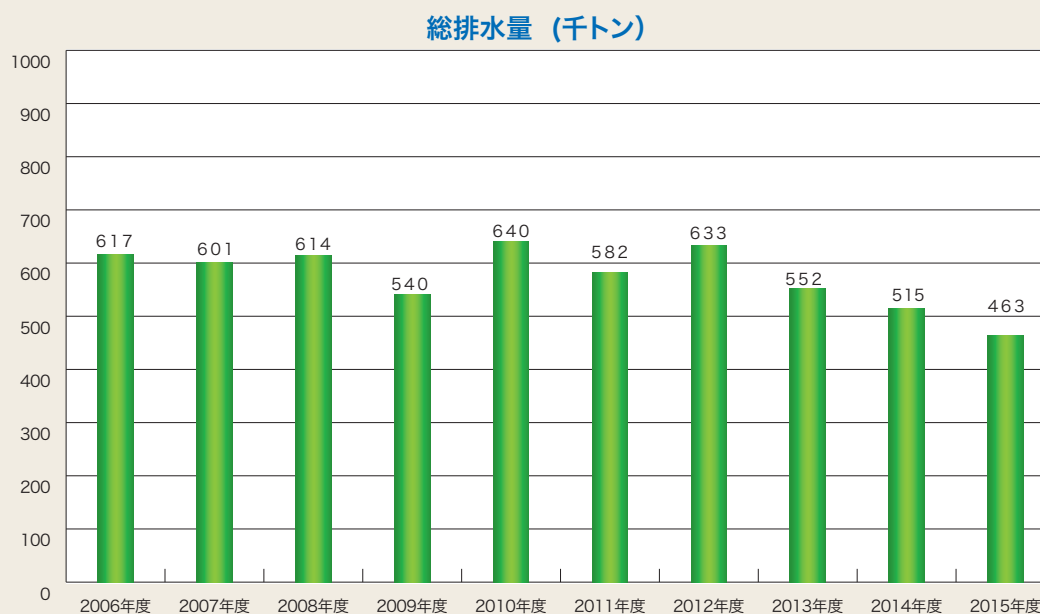
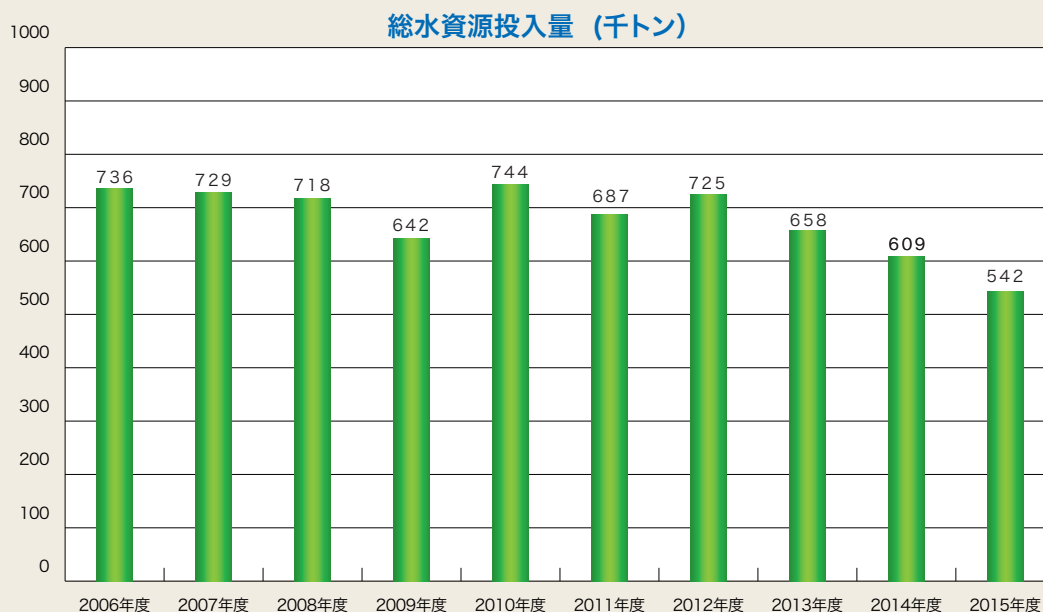
2015年度の実績につきましては、エネルギー原単位は悪化し目標を達成できませんでした。また、CO₂発生量についても生産増加により発生量も増加し目標以下で抑える事ができませんでした。2016年度は、エネルギー効率改善や省エネ設備投資をさらに進め、目標達成に向けて取り組んでゆきます。



省資源・廃棄物の削減

●水資源の有効活用

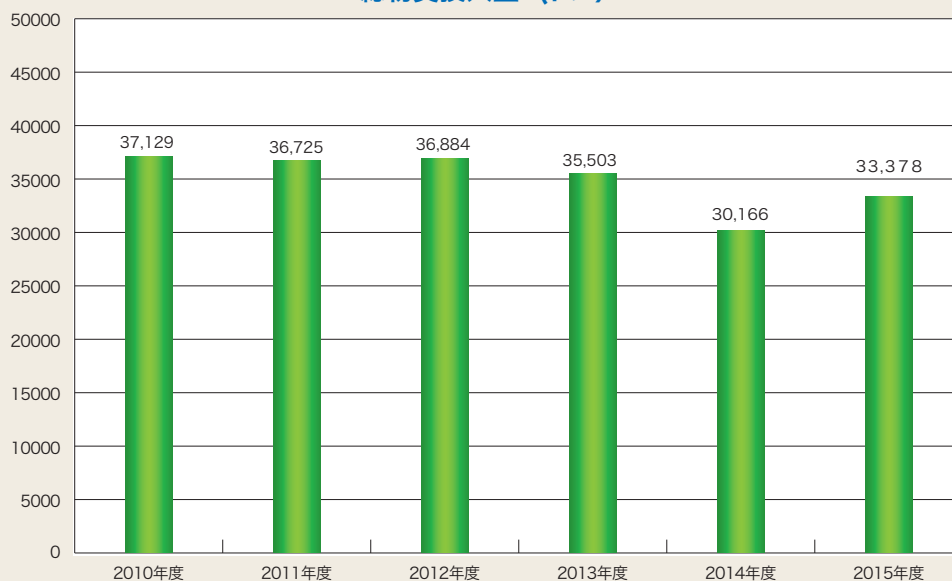
ダイニック全体で、水資源の有効活用に取り組んでおり、生産工程で使用する洗浄水や、冷却水などのリサイクルを推進しております。また、使用量の削減にも努め、総水資源投入量、総排水量の減少に取り組んできました。2015年度は2006年度比で総水資源投入量は26%程度、総排水量は25%程度削減することができています。



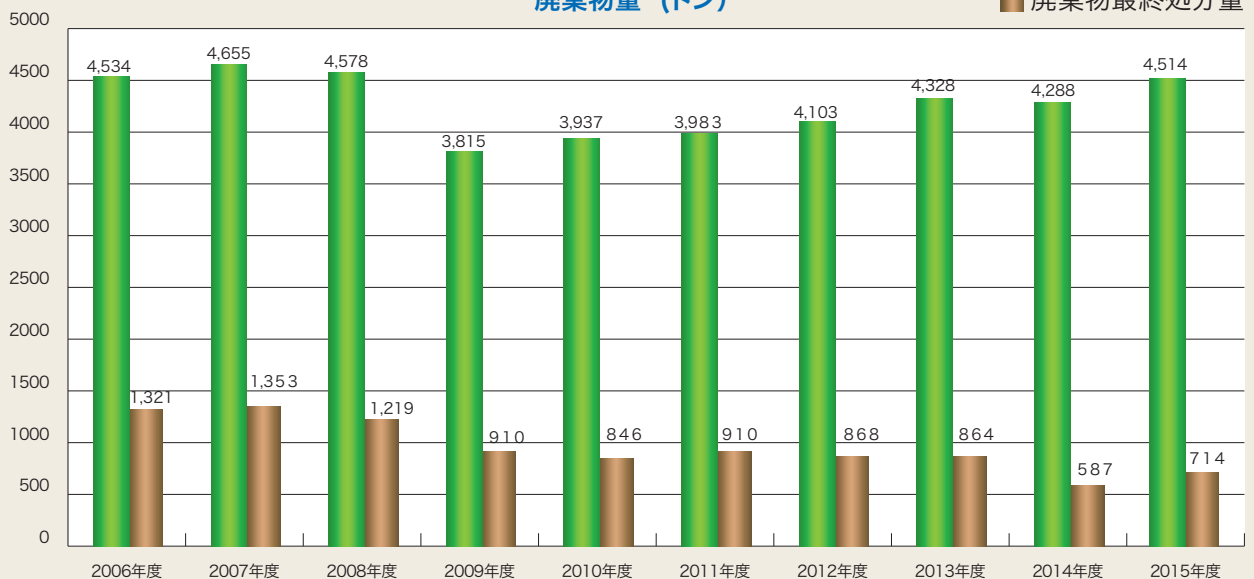
● 廃棄物の削減

地球環境保護のため、廃棄物の削減に取り組んでいます。取り組みは、廃棄物の総量を減少させるだけでなく、資源の有効利用の観点からも、リユース、リサイクルを進めてきました。総物質投入量も2010年度37,129トンに対し、2015年度33,378トンと10.1%削減できています。総廃棄物量は2009年度以降多少増加傾向にありますが、廃棄物最終処分量は、リユース、リサイクルの推進成果で年々減少してきており、2015年度は2006年度比で46%減少させることができています。

総物質投入量 (トン)



廃棄物量 (トン)

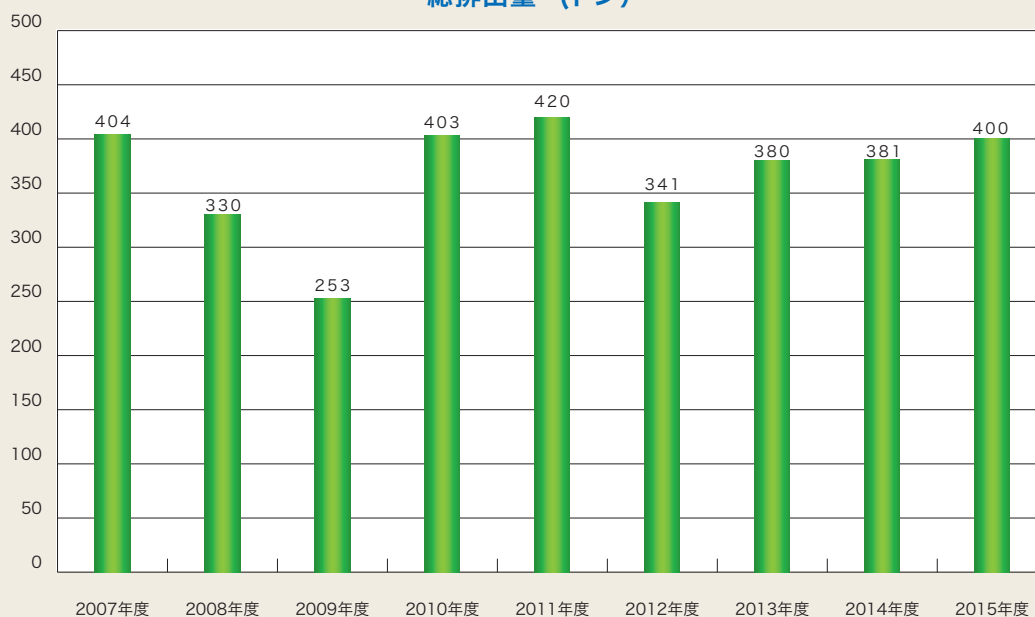


化学物質排出削減

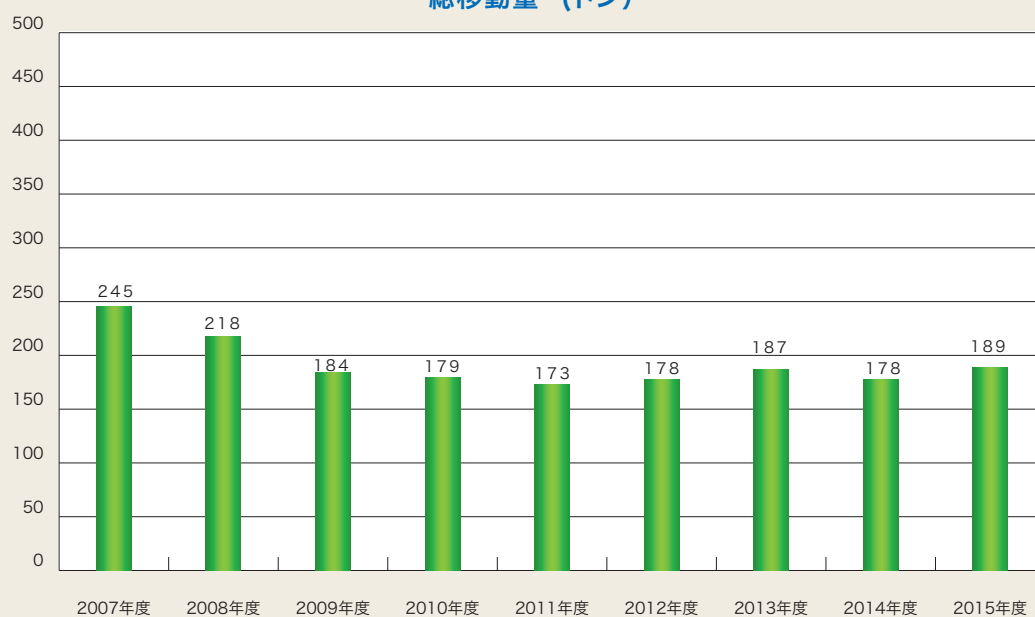
化管法に基づくPRTTR制度に従い使用中の化学物質の環境への排出量の届け出を行うとともに、削減に努めてきています。

2015年度の総排出量は2014年度実績よりわずかに上昇しています。総移動量もわずかに上昇しています。今後、さらにVOC処理装置の導入等により削減に努めてゆきます。

総排出量 (トン)



総移動量 (トン)



環境関連商品

ダイニック株式会社は社会の発展や、より豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に、鋭意取り組んでいます。そしてそのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献につながるものと考えています。

当社では、「人の健康と地球環境へ配慮した商品」を環境関連商品と定義しています。

【環境負荷の少ない原材料を使用した商品】

＊ 脱塩ビ各種商品

紙刃、非塩ビファイル、オレフィン系クロス、紙製振り込みカード、EVAコンテナ等

＊ 再生紙、再生繊維、再生樹脂を使用した各種商品

FSC認証紙クロス、トナーカートリッジ再生、リサイクルカーペット、エコマーク接着芯地等

【使うことで環境負荷を低減できる商品】

＊ 抗菌・消臭・防音機能を付与した各種商品

抗菌装丁用クロス、抗菌包装材、不織布消臭シート、不織布床防音材、消臭・抗菌壁紙等

＊ 健康・食品の鮮度保持に役立つ商品

耐水食品包材、食品鮮度保持剤、空気清浄機用フィルター材、パップ材の離型フィルム等

【部品として組み込まれて、環境負荷低減に貢献している商品】

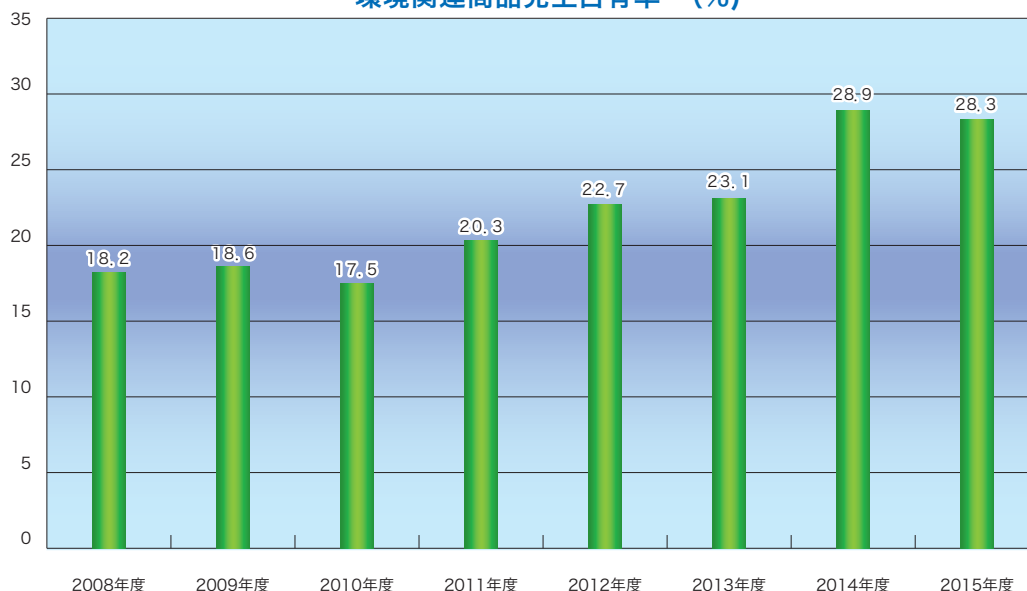
＊ 電子部品として組み込まれ、省エネに貢献している商品

有機EL用乾燥材

＊ 製造工程短縮に役立つ部材

車両座席固定用面状ファスナー材

環境関連商品売上占有率 (%)



これら環境関連商品の個別の内容説明は、当社ホームページに掲載していますのでご覧ください。当社は「環境関連商品で社会に貢献する」をキーワードに積極的に商品の開発を行ってきました。その成果として、環境関連商品の当社売上に占める比率は、2010年度以降年々伸ばすことができていましたが、2015年度につきましては、2014年度に比べ売上は増えているものの売上比率では、0.6%下げています。

今後もさらに、環境関連商品売上占有率を上げてゆくことで、社会に貢献してゆきたいと考えており、皆様からの当社環境関連商品についてのご意見、ご要望をお聞かせいただければ幸いです。



『環境報告書2016』

発行：ダイニック株式会社 環境推進室

発行日：2016年8月10日